大阪城

2022 1/13 (木) 14227号

全港湾西成分会

ごんわ 6647-4947

戎さんも終り、新しい年が動きはじめている。厳しい寒さも、あと2ヶ月ほどで、なんとか春が見通せるところまできている。

オミクロンウイルスが、大阪でもふえてきていて、かかっても軽症だとかのウワサも出回っているが、気を抜かず、以前以上に慎重にウイルスと戦っていきたいものです。まだ、1年は戦斗が必要なように見うけられます。

生活では、今年は物の値段がドンドン上っていく状況にあり、予想では今年の年末には5.5%ぐらい上るのではないかと見る人が多いという。

岸田政権は、分配をいったり、新しい資本主義とかいって、賃金も3%上げるよう発言はするが実行力は全くわからないし、何の保障も、担保もない。国会は1/17(月)から6/15(水)までの予定で夏には7/10(日)参議院選挙だと予想されていて、政治は7/10にむけて流れているように見えます。

しかし、人間たちのざわめきとは別に、社会の土台や中軸では、コロナウイルスの物質や、電気自動車(EV)や半導体、水素燃料など、物質の動き、そして科学が、大きな方向を形づくっていっています。

新年の期待。

コロナが収まって仕事がでてくること。

今年の現金求人の仕事どうだろう。相変わらず勢いのない労働市場のようですが、それでも厳しい寒さの中で仕事を探し頑張っている仲間のみなさんご苦労様です。

長かった暮れから正月にかけての休日気分も覚めて新しい年のペースをつかんでやっていきたいものです。

それにしても世界は戦争含みのきな臭い緊張した政治状況に包まれています。

ウクライナをめぐって米ロの対立、台湾をめぐって米中の政治的駆け引き、カザフスタンでの反政府暴動戦争の火種はあらゆるところで着火寸前の様相です。

もうすぐ来月、冬季北京オリンピックを、めぐっての「外交的ボイコット」とか、訳のわからない政治的駆け引きがあったりして、急きょウイグル問題を勉強しないといけなくなったりとか、あわただしい時代と年になっているので、労働者も視野を広げて烈しい時代を生きていけるようにしたいものです。